会長就任にあたって

加藤　雅治　東京工業大学　大学院総合理工学研究科　教授

この度、第52代日本鉄鋼協会会長に選定されました。大変光栄に存じますが、同時に責任の重大さに身の引き締まる思いがしております。田中敏宏副会長、柳川欽也副会長をはじめ、理事、代議員、会員および事務局の皆様のお力をお借りして、微力ながら精一杯努めさせていただきます。

日本鉄鋼協会は1915年に設立され、野呂景義先生が初代会長に就かれました。以来、鉄鋼に関する科学技術の発展を支え続け、来年には創立100周年を迎えます。各種の記念事業が計画されていますが、先陣を切って「鉄と鋼」の100巻特集号がほぼ隔号で刊行されており、「第5版鉄鋼便覧」も発刊に向かっています。関係各位のご尽力によって、いずれも本会の100年を祝うに相応しい充実した内容になっています。さらに来年には記念式典の挙行、「鉄鋼材料と合金元素改訂版」の記念出版、国際会議「Asia Steel 2015」の開催などを予定しています。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

日本の鉄鋼業は、他国の追随を許さない優れた生産技術を駆使して、付加価値の高い鋼を市場に送り出し、我が国の経済発展を担ってきました。しかし、東アジアを中心とした新興国の技術も、急速に我が国に追いつこうとしています。東日本大震災からの復興を含め、安全・安心な我が国の持続的発展を可能にし、ひいては世界のエネルギー・環境問題にも貢献するためには、社会基盤材料たる鉄鋼およびその周辺の科学技術の進展を、産官学が一丸となって加速させることが必要です。そして、そのために日本鉄鋼協会が果たすべき役割には、極めて大きいものがあります。

講演大会・研修会等の開催、研究の助成と業績の表彰、学術誌・学術図書の発行は、本会の基本活動の柱です。たとえば論文誌では、編集委員会のご努力によって、電子投稿・審査システムの導入やフリーアクセス化が実現され、「ISIJ International」は国際的な論文誌として確固たる地位を築いています。今後は、欧文誌のさらなる充実を図るとともに、「鉄と鋼」も読みやすく親しみやすい和文誌として編集方針を検討し、論文数の増加を目指します。また、2015年からは会報「ふぇらむ」の電子化も行う予定です。これに伴って、2008年から合本発行しておりました「ふぇらむ」と「鉄と鋼」が、再び分離することになります。

講演大会では、現在行われている諸事業の継続に加えて、鉄鋼材料や構造材料に関する我が国の大型プロジェクトのシンポジウムなどを同時開催する試みを検討します。オールジャパン体制での構造材料研究の推進に貢献し、我が国の科学技術政策に対して適切な提言と対応を行うことも本会の重要な役割の一つと考えています。

学術部会、技術部会は、密度の濃い活動を続けています。私自身、若い頃から研究会やフォーラムで勉強させていただき、多くの技術者、研究者と知り合いになりました。これらの方々は、今でも親しい友人や研究仲間として、私の財産になっています。このように、部会活動は、学術・技術の発展に資することはもとより、人材育成や人間関係の涵養の観点からも非常に重要ですので、より一層充実させ、部会発の成果を論文や技術報告として本会の論文誌に投稿することも推奨したいと思います。

本会理事会の下に設置された鉄鋼プレゼンス研究調査委員会（委員長：小島彰前専務理事）が「鉄鋼プレゼンス向上に関する提言」を2013年4月にまとめました。8つの具体的な提言が示されていますが、その多くが人材育成と啓発活動に関連します。鉄鋼および材料分野の重要性と魅力を広く社会にPRし、次世代を担う若手を育成する責務が本会にはあります。本会ではすでに種々の育成・教育活動を行っていますが、今後は日本鉄鋼連盟、日本金属学会をはじめ、他の学協会等との連携を強化して、人材育成活動や広報活動をさらに活性化させます。この他、会員サービスの向上、情報管理システムの改善、学への助成、国際交流の推進など、歴代会長の下で実行されてきた諸方策を継続して進めます。

以上に述べたことを着実に実行するためには、会員各位のご協力が不可欠です。皆様の忌憚のないご意見をお聞かせいただくとともに、ご支援、ご鞭撻を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。